

大東文化大学スポーツ・健康科学部 健康科学科
 大学院スポーツ・健康科学研究科 健康情報科学領域
 予防医学専攻

杉森 裕樹* 小田嶋 剛 丹波 泰子 狩野 元成

I. 大東文化大学の紹介

大東文化大学は、1921年第44回国会(旧帝国議会)にて「漢学振興に関する建議案」が可決され、1923年(大正12年)に国会の決議によって東京九段(靖国神社近く)に設立された大東文化学院を前身としています。とくに、中国学、日本文学、書道などの分野では長い歴史を誇っています。(落語家で人間国宝の桂米朝さんは大東文化学院本科第20期生)

2010年で87周年を迎えますが、現在は、建学の精神「東西文化の融合」を現代的にとらえ直し、「多文化共生を目指す新しい価値の不断の創造」を100周年に向けた理念に据えています。

学部構成としては、8学部19学科を擁する総合大学と発展してきました。本学はおよそ12,500名の学生を擁していますが、全国743の大学校のうち29番目に位置づけられています。キャンパスは板橋キャンパス、東松山キャンパス、信濃町キャンパスに分かれています。

また、女子学生に評判が良い(笑)のが、東松山キャンパスに隣接する埼玉県こども動物自然公園の一角にある、「大東文化大学ピアトリクス・ポター™資料館～ピーターラビットの絵本の世界～」です。ピアトリクス・ポター蔵書コレクションを展示しており、パネル、私家版、原画や直筆



写真1 大東文化大学ピアトリクス・ポター™資料館

の手紙、24冊すべての初版本など世界的にも評価の高い貴重な資料が展示されています(ポターの母国の英国放送協会BBC¹⁾でも取り上げられたほどです、ぜひ一度おいでください!。

II. 健康科学科の紹介

2005年(平成17年)にスポーツ科学科と健康科学科の2学科で構成されるスポーツ・健康科学部が新設され、人文・社会科学系が多い本学のなかで、医療・自然科学系として健康科学科が設置されました。

新設学科ではありますが、大東医学技術専門学校臨床検査科が45年間に培った臨床検査技師養

* hsugimor@ic.daito.ac.jp

成校としての歴史・伝統・キャリアがあり、それらを継承し、高い専門教育を充実させています。

本学科の特長として、臨床検査技師(国家資格)を中心に、食品衛生管理者(任用資格)、第二種作業環境測定士(国家資格)の3資格を目指すことのできるカリキュラム構成となっている点があげられます。4年間の学部学科教育では、卒業要件124単位に加え、臨床検査技師取得には32単位、食品衛生管理者取得には7単位が必須となっています。第二種作業環境測定士取得には、さらに5単位を必要とします(全資格取得をめざして頑張る学生も珍しくありません)。

多くの系統講義と実習が組まれておりますが、すべてをご紹介できませんので、私の担当する公衆衛生学実習について、少しご紹介させていただきます。

社会と医学との関わりを学ぶ公衆衛生学実習では、系統講義では十分に学ぶことができない領域を中心に、公衆衛生に係わるテーマに対して、学生自らが資料を収集・整理して課題を解決して論文として仕上げることを目標とさせています。さらに、学会形式の発表を通して、プレゼンテーション技術(パワーポイントを駆使して高度な発表をする学生も少なくありません)を学ぶ「論文セミナー」を中心にした教育を行っています。やや大言となりますが、近年コミュニケーションやリテラシースキルが低下していると言われる当世の若者事情の解決の糸口に少しでも役立つと考えています。



写真2 スポーツ・健康科学部・大東文化大学
東松山キャンパス9号館

III. 大学院スポーツ・科学研究科の紹介

健康科学科1期生が卒業した2009年4月にあわせて、スポーツ・健康科学部付置として、大学院スポーツ・健康科学研究科が設けられました。研究科では、スポーツや医療の分野において、高度な専門的知識・技術を有したプロフェッショナルや研究者を養成することを目的としており、「スポーツ科学」、「応用スポーツ科学」、「健康科学」、「健康情報科学」の4領域で構成されています。

「健康情報科学」領域は、医療情報に関して統計学的手法による分析をする医療情報学的研究、保健や医療、福祉に関する情報などを疫学分析する予防医学的研究(公衆衛生学)などに取り組み、疾病発生の予防と治療・ケアの根拠を明確化して、現代医学に不可欠となった根拠に基づいた医療(EBM; Evidence Based Medicine)を精力的に展開していくことを目指しています。

本領域には、「健康情報学」と「予防医学」の二つの専攻がありますが、私の担当する「予防医学」専攻(杉森研究室)では、臨床検査データ(健康診断・人間ドックデータなど)や医療情報データ(電子カルテ情報など)を用いて、統計学的処理(データマイニング、テキストマイニングを含む)や疫学手法を技術的に用いながら、予防医学に関する研究・指導を行っています。現在、一番関心を持って検討を進めているのが、予防・医療分野のコミュニケーションです。

IV. 健康情報科学領域予防医学専攻の研究テーマ

最後に、私たちが現在行っています研究テーマの一端をご紹介したいと思います。

厚生労働科学研究では、「医薬品・医療機器の安全性に関するリスクコミュニケーション(リスクコミ)」をテーマとする研究を担当しています²⁾。タミフルや薬害肝炎問題などの医薬品などの安全性への信頼に疑問が投げかけられつつある今日、患者・消費者に対して医薬品・医療機器の安全性情報の適切な提供と理解(リスクコミ)は喫緊の課題

です。また、この課題は患者・消費者だけにとどまらず、医療従事者に対しても、適切なリスコミのあり方が問われています。たとえば、「自己血糖測定器の使い回し」事件では、今日の医療技術の急速な進歩の中では、医療従事者でも新しい技術の理解が必ずしも十分ではないことを露呈しました。また、コミュニケーションのスキルの部分でヘルスリテラシーの検討も行っています。

この他に、厚生労働省として特定疾患の疫学に関する研究(小児炎症性腸疾患の発症関連要因・予防要因の解明；母児の生活習慣と遺伝子多型に関する症例・対照研究)や新しい医療技術の医療経済的評価などにも取り組んでいます。

現在、社会人学生も含めた4人の大学院生と研究を進めておりますが、テーマは

(1) 日本赤十字社東京都血液センターや東京女子医科大学との共同研究による、献血や採血などの穿刺採血後に発生する副作用の一つである迷走神経反射(VVR；Vaso-Vagal Reaction)のリスクファクターの探究やVVR予防対策の検討

(2) 職域における、自覚的疲労感や過重労働と臨床検査データ(生化学データ)や健康習慣指数(HPI；Health Practice Index)との関連性の検討

(3) 職域における、正規雇用と非正規雇用における主観的健康感とその関連因子の検討では、労働者のQWL(Quality of Working Life)Work-life balance(仕事と生活の調和)について考察しています。

(4) 調剤薬局における、患者志向の薬歴管理システムの開発

など多岐にわたって、精力的に研究しています。



写真3 健康科学科の懇親会

(平成22年3月、板橋の割烹料理屋にて)

謝辞

稿を終えるにあたり、大東文化大学の歴史などについてご助言頂きました事務局長 小田嶋武行氏に感謝申し上げます。

文 献

- 1) BBC news, 12 June 2006,
http://news.bbc.co.uk/2/hi/uk_news/england/cumbria/5070620.stm
- 2) 厚生労働科学研究費補助金医薬品・医療機器などレギュラトリーサイエンス総合事業「国民および医療関係者との副作用情報にかかるリスクコミュニケーション方策に関する調査研究：副作用の効果的な情報伝達手法の検討」(研究代表者 杉森裕樹)
- 3) 杉森裕樹, 他. 臨床検査カレッジ：リスクコミュニケーション. 医薬品および医療機器の安全性におけるリスクコミュニケーション. 医療と検査・機器試薬 2010; 33(3): 361-5.